



Title	GLOCOLブックレット14 編集後記
Author(s)	安藤, 由香里
Citation	GLOCOLブックレット. 2014, 14, p. 116-117
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/50016
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

編集後記

本ブックレットは、2012年9月に実施した『海外フィールドスタディ S「国際機関の活動を知る』(スイス・フランス)』を基に、その後、参加学生に所感を求めた部分と、担当教員によるグローバル人材育成についての論稿から構成されている。編集会議の中で、全体を見直し、GLOCOL出版物としての意味を検討し、再度、学生に見直しを求めると共に、編者が指示を出し修正した後、掲載となった。そのため、反応がなかった学生分は掲載にいたらなかった。その結果、単なる感想文に終わることなく、海外フィールドスタディに実際に参加した者しか伝えられない躍動感が伝わっていると思う。

まだまだ様々な課題が山積してはいるものの、同プログラムの最大の目的は、非常に多くの方の協力があったからこそ120%目標達成に至ることができた。2011年12月の事前調査、2012年7月の事前調整およびフィールドスタディ本番の2012年9月にお忙しい中、時間を割いてくださり、お世話になった方々に心よりお礼を申し上げたい。特に、外務省国際機関人事センターの伊藤室長および伊藤真弓さん、在ジュネーヴ国際機関日本政府代表部の本田さんおよび太田さん、在パリOECD日本政府代表部の姫野公使および正本さん、在パリUNESCO日本政府代表部の宇川さん、在ストラスブル総領事館の郡司さんには大変お世話になった(肩書きは当時)。また、各国の国際機関で働く親愛なる友人たち。そして、ジュネーヴ高等研究所、OHCHR、HRC、UNHCR、WTO、WHO、UNESCO、IEA、OECD、欧州評議会、欧州人権裁判所で親切に対応いただいた皆さま。事前学習や準備段階でご助言をいただいた大阪大学や関係者の皆さま。GLOCOLの仲間たち、とりわけ、はじめにを執筆いただいた大橋一友センター長、「大学によるグローバル人材育成の今後の課題」に寄稿いただいた宮原暁副センター長、FIELDO長の敦賀和外特任准教授、FILEDO事務をきりもりしている片山歩さん。ブックレット編集で大変お世話になった島薗洋介講師および宮地薰子さん。そして何よりも多忙なスケジュールにもかかわらず、

担当教員となることを快く引き受けてくださった兼松泰男教授なくして実現し得なかった。本当にありがとうございました。また、初顔合せでは不安がなかったわけではないのに、見事なグループ・ダイナミックスを発揮した、正樹くん、健児くん、泰志くん、彩さん、香さん、カニーさん、シェリーさん、チャンダさん、照代さん、仁実さん。皆さんに、感謝の意を表すと共に、ますますのコラボレーションを願ってやまない。

本ブックレット完成までには非常に長いプロセスがかかり、関係者にご迷惑をかけたが、グローバル人材育成に関心をもつ方々(養成する側、養成される側)が、今後実践を進めるうえで、本ブックレットが何らかのお役にたつがあれば幸いである。

編者代表:安藤由香里

2014年1月 豊中にて